

文京学院大学 2025年度入学式
2025年4月1日 仁愛ホールにて

入学式告辞

緑が芽吹き、晴れやかな新年度に相応しい季節となりました。本日、文京学院大学入学式を迎えられた新入生の皆様、ご家族の皆様、ご入学誠にありがとうございます。入学までのご努力、またそれを支えてこられた皆様にも心よりお祝いを申し上げます。ここに教職員・在学生一同、皆様を歓迎申し上げます。

本日台北駐日経済文化代表処教育部 部長 黄 冠超(こう かんちょう)様にお越しいたき、代表 李逸洋(り いつよう)閣下からのお言葉をいただくことは大変光栄に感じております。

私は大学時代というものは皆さんの人生の大きなページ数を占める物語だと思っています。今日から、皆さんの新たな物語が始まります。おひとりおひとりが、主人公として、自分自身を見つめ、夢を追い求め、果敢に、そして新たに挑戦する時間です。本学は、皆さんの物語の場所となり、夢の実現を支えるための環境を提供します。

さて、今日はその最初の日ということになります。これから始まる大学、あるいは大学院生活に、大きな期待やあるいは不安も抱いておられるかもしれません。この4年間あるいは大学院2年間、皆さんには成長をして頂く期間となると思います。その成長にあたり、本学の「建学の精神」について、お話ししたいと思います。大学には、どのような人間を育成するかについて定めた言葉があり、それを「建学の精神」と呼びますが、文京学院大学の建学の精神は「自立と共生」です。

自立にはどのような意味があるのでしょうか。「他の援助を借りない」あるいは「支配を受けずに」という説明もできますが、私の解釈では、「自己決定に基づき、主体的になる」という事だと思っています。まずは、「あなたはどのように思いますか？」という問いに答えを持つということでもあります。そして何より自分から行動を起こすことです。

昨年、正月に能登半島地震が起こりました。本学でも帰省中の2名の学生が被災しました。この2名のうち一人は当時4年生で、国家試験目前の方で、もうひとりは教職課程3年生の方でした。そのおひとりは、昨年見事に国家試験合格されました。そして、もうおひとりは、つい先日、東京都教員採用試験に合格しました。お二人とも被災地には住めなくなり、大変な思いをしましたが、地震に負けずに頑張ってくれました。本当に嬉しく思います。また、この2名が自立する過程において、多くの教職員が団結して協力してくれたことは、本当に嬉しかったことでした。石川県珠洲市には昨年の年末に人間学部福祉学科の教員と学生がボランティア

に入りました。またそれとは別に、今年に入ってから本郷キャンパスからも、ボランティアで寄付や炊き出しを行いました。これも学生が自ら起こした行動がきっかけでした。

さて、皆さんは大学に入学したばかりで、あまりに早いと思うかもしれませんが、やがて今後の進路を考えることになるでしょう。今日はそのヒントを2つお話ししたいと思います。

1つ目は卒業してからどうするか。よくあるのは、安定した企業に就職するということを考えることでしょう。自立のためには頷ける理由です。ですが、今後の自分の進路を考える時に、次のように考えることが多くの先人の知恵でもあります。それは「自分以外の人の幸せのため」を考えることが、その人の生き甲斐になるということです。是非忘れないでください。

約100年前に関東大震災という東京を中心とした大地震が起こりました。創立者島田依史子先生は決意をして地震の翌年に女性の自立を目指して、22歳で本学を創設しました。22歳です。皆さんとほとんど変わらない年齢で、人のために行動を起こした。そういう方がこの大学の創設者であることを覚えておいてください。

もう一つの方法ですが、これは次のような事です。「誰でもできる仕事というものは、人によって最も差が出る仕事でもあります。だからこそ、その仕事を誰もができないようにやったら、その人にしかできない仕事になる」ということです。いかがでしょうか。この後、アルバイトをする方も多いと思いますが、そのひとつひとつの仕事の多くは単純な仕事かもしれません。しかしながら、そういった仕事は、人によって一番差が出る仕事でもあります。その誰もができる仕事を、誰もができないように創造的にやったら、それはその人にしかできない仕事になる。つまり仕事場ではその人が本当に必要になる、と言うことです。

今2つお話しさせて頂きましたが、きっとすぐに忘れるでしょう。ではもっと重要なことを言いますので、これは覚えて下さいね。それは、「今までにやっていないことをする」ということです。さきほど被災地ボランティアの話をしましたが、このボランタリーには、自発性ととも、人に左右されない、という意味があります。凄い言葉ですよ。このような力の獲得策の一案として、皆さんが行ったことの無い場所への一人旅をするということもお勧めしたいと思います。多くの体験を積むためには多くの決断も必要になります。決断を繰り返し、自分自身を作り上げる姿の集大成が「自立」です。自立は従属からの独立過程であると同時に、自分の立ち位置を知る機会になります。

次は「共生」について述べます。自分とは違う考え、行動、感情、そして環境や社会を受け入れることを「共生」と呼びます。一緒に生きていくことです。自分の内側から価値観を相対化して人間の入れ物を大きくすることでもあります。私たちは人と一緒にないと人間らしく生きていくことは難しいです。新しい友人、先輩、教職員との出会いに是非飛び込んで欲しいと思います。たくさんの人と出会い、自分との違いにも気づき、違う考えの人を受け入れることで自分の入れ物も大きくなります。今まで自分では受け入れることが難しかった、友人にはなり得

なかった友人のその部分はあなたの器を広げることで広がります。それこそが「共生」につながると思います。また、大学の教員や職員とのつながりが、その「器」を広げることに有益であることも忘れないでください。教員や職員は皆さんの器を広げるために大学にいると思ってもらって結構です。

自立すること、共生することは人との関係で育まれます。そして、皆さんにとっての自立と共生に根ざした、大学 4 年間あるいは大学院 2 年間は、「物語」であり、主人公は皆さんです。それぞれが主人公として、自分自身を見つめ、夢を追い求め、新たな挑戦をする時間なのです。本学は、皆さんがその物語を紡ぎ出す場であり、夢の実現を支えるための環境を提供します。留学関連プログラムをはじめ、多くのプログラムも用意しております。皆さんの可能性は限りないものです。大学をフルに活かしてください。

もうひとつ、私の申し上げたいことがあります。それは自分を客観視する能力を高めて欲しいということです。例えばですが、「誰かに言われたひとことをいつまでも気にしている」、そういう自分に気が付くことです。コンビニのレジで、なかなか会計が済まない人の後ろに並んでいるあなたの心に起こっていることかもしれません。そこでイライラしている自分がいたら、イライラしている自分に気づくということです。そういうことを何度も何度も繰り返し感じられれば、その人は別の選択があることにも気が付きやすくなるからです。気が付かなければ、常に同じこと、この場合はイライラしていることを繰り返してしまうということにもなります。それでは進歩がないですね。気づくことで、器が広がるということを知って欲しいと思います。その気付きを得るには、様々な経験が必要です。大学生活では、成功も失敗もともにあるはずです。両方とも経験することで器が広がることになります。面白い大学時代にしたい人は多くの経験を自分で選んでください。面白くするのはあなたです。

「自分以外の人の誰かの幸せのため」を考えることが、その人の生き甲斐になることがとても多いと申し上げました。皆さんのご両親は、自分の事より皆さんの幸せを考えて、今まで皆さんのサポートをしてこられたのではないのでしょうか。そういったご両親や家族の方への感謝にも気づき、客観視ができるようになってほしいと思います。

一方でご両親にもお伝えしたいと思います。この4年間にお願いしたいことは、この学生たちを信じてあげて下さいということです。18年ほど前にここにいる学生たちが産声を上げたときがありました。すくすくと育って、今ではここに座っています。赤ちゃんはとうとう大学生になり、これから本当の自立への準備をします。彼らのあらたな物語を、信じて見守って、そして支えてあげてください。どうぞよろしくお願いいたします。

今日からあなたたちの物語の開演です。改めて新入生の皆様のご入学を心から祝福申し上げます。本日は誠にありがとうございます

文京学院大学

学長 福井 勉